

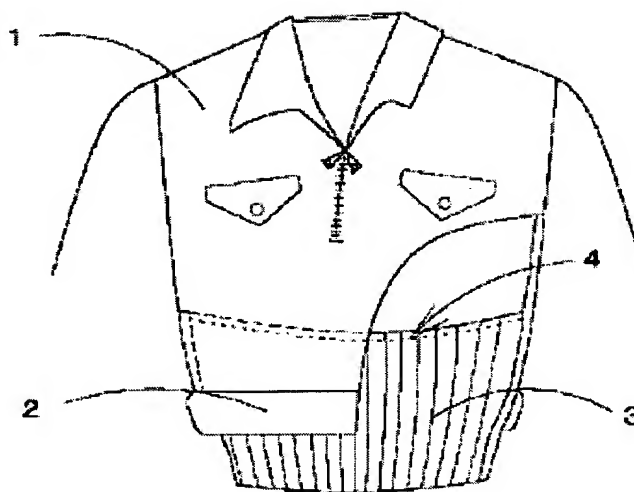
WORKING WEAR

Patent number: JP2000303221
Publication date: 2000-10-31
Inventor: SUNAHARA YOSHINORI
Applicant: SUNAHARA YOSHINORI
Classification:
- **International:** A41D13/00; A41D1/02
- **European:**
Application number: JP19990109209 19990416
Priority number(s):

Abstract of JP2000303221

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a working wear of the separate type, having no defect inherent in jumpsuits and having merits of the jumpsuits.

SOLUTION: This wear comprises a jacket 1 and a stretchable supplementary cloth 3 inner side of trunk of the jacket 1. The supplementary cloth 3 is extending downward from the surrounding position and fixed by tightening the elongated part of the supplementary cloth 3 at belt position of trousers when worn.



Data supplied from the *esp@cenet* database - Worldwide

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-303221

(P2000-303221A)

(43) 公開日 平成12年10月31日 (2000.10.31)

(51) Int.Cl.⁷A 4 1 D 13/00
1/02

識別記号

F I

A 4 1 D 13/00
1/02

テ-マコ-ト* (参考)

G 3 B 0 1 1
E 3 B 0 3 1

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平11-109209

(22) 出願日 平成11年4月16日 (1999.4.16)

(71) 出願人 599053595

砂原 義典

大阪市東住吉区南田辺五丁目14-1-102

(72) 発明者 砂原 義典

大阪市東住吉区南田辺五丁目14-1-102

(74) 代理人 100095647

弁理士 濱田 俊明

Fターム(参考) 3B011 AA01 AB01 AC17

3B031 AA02 AB08 AC12 AC17 AC20

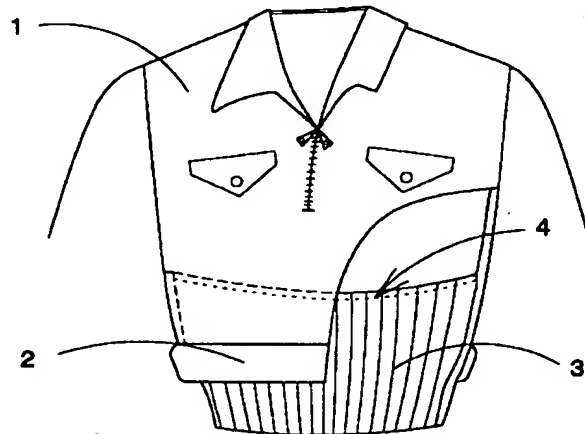
AE02

(54) 【発明の名称】 作業服

(57) 【要約】

【課題】 ジャンプスーツの構造が抱えている弊害の全くないセパレートタイプの作業服であって、かつ、ジャンプスーツの長所を備えた作業服について開示する。

【解決手段】 上衣と、その上衣の胴部内側に周設された伸縮性の補助布とからなる作業服であって、その補助布は前記周設部位から下方へ延長しており、着用時には、前記補助布の延長部分をズボン等のベルト部で締めつけて固定した。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】上衣と、その上衣の胴部内側に周設された伸縮性の補助布とからなり、その補助布は前記周設部位から下方へ延長しており、さらに、着用時には、前記補助布の延長部分をズボン等のベルト部で締めつけて固定することを特徴とする作業服。

【請求項 2】前記上衣は、ブルオーバであって、その胴部内側に筒状の補助布を周設した請求項 1 記載の作業服。

【請求項 3】前記上衣は、前開きであって、その胴部内側に帯状の補助布を周設し、前記上衣の開きに対応する補助布の部分には留め部材を設けた請求項 1 記載の作業服。

【請求項 4】前記補助布には、ゴムニット綿を採用した請求項 1 から 3 記載の作業服。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術分野】本発明は、工場等で作業者が着用する衣服や幼児の衣服等の改良に関する。具体的には、上衣と下衣が一体化したジャンプスーツを着用することが好ましい時に着用する衣服であって、上衣と下衣が分離したものに係る。

【0002】

【発明が解決しようとする課題】従来から、自動車の整備や化学系の工場等では、オイル等が作業者の身体や下着に付着しないよう、作業服としてジャンプスーツが採用されている。これは、上衣と下衣が分離したセパレートタイプの作業服では、例えば、前屈姿勢時には背中が出てしまうからである。しかしながら、ジャンプスーツは、作業者の動きによって、身体が圧迫されるため、肩こり、腰痛等の原因となっている。特に、前屈姿勢時には、ジャンプスーツの背衣部分が下方に引っ張られることとなり、結果として、前衣によって首が絞めつけられてしまう。

【0003】一方、最近では、前述のような圧迫をやわらげるため、作業者の動きに合わせて、ジャンプスーツの要所に工夫がなされている。例えば、前述の前屈姿勢時に対応するために背衣腰部にはアコーディオンが設けられ、作業者の動きに合わせて該部分が伸縮する構成になっている。しかしながら、このような工夫のみでは、上衣と下衣が一体化したために起こる圧迫感の根本的解決とはなっていないのが現状である。

【0004】さらに加えて、ジャンプスーツは、脱着が困難であり、特に、トイレ使用時には不便であり、上衣と下衣が一体化しているというジャンプスーツの基本構造自体が問題となっている。また、このようなジャンプスーツは、幼児の服にも見られるが、おむつの取り替え等において大変不便である。

【0005】本発明は、上述した課題を解決することを目的としたものであって、ジャンプスーツの構造が抱え

ている弊害の全くないセパレートタイプの作業服であって、かつ、ジャンプスーツの長所を備えた作業服について開示する。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明では、上記目的を達成するために、上衣と、その上衣の胴部内側に周設された伸縮性の補助布とからなる作業服とし、その補助布は前記周設部位から下方へ延長することとした。そして、着用時には、前記補助布の延長部分を、ズボン等のベルト部で締めつけて固定した。このように、上衣の内側に補助布を設け、その延長部分をズボン等の下衣に入れて締めつけることにより、セパレートタイプの作業服であっても、例えば、前屈姿勢時にも背中が出てしまうことがない。

【0007】特に、前記上衣は、ブルオーバとし、その胴部内側に筒状の補助布を周設するという手段を採用した。このような手段を採用すると、作業者の腰の部分が筒状の補助布によってすっぽりと覆われ、かつ、着用が容易なので、幼児の衣服としても活用できる。

【0008】また、上衣を前開きとする場合には、その胴部内側に帯状の補助布を周設し、前記上衣の開きに対応する補助布の部分には留め部材を設けることとした。このような手段を採用することにより、前開きの上衣であっても、筒状の補助布を周設した場合と同様に作業者の腰部をしっかりと覆うことができる。

【0009】さらに、作業者が動きやすいように前記補助布には、ゴムニット綿を採用した。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明の好ましい実施形態を添付した図面に従って説明する。図 1 は、本発明で開示する作業服の一例であって、1 はブルオーバの上衣を、2 は上衣の帯を、3 は上衣の内側胴部に周設した補助布を、4 は当該補助布の上衣へ縫いつけた縫い目を、それぞれ示している。尚、上衣の内部が分かりやすいように、前衣の一部はカットした状態で示している。本実施形態の特徴的な構成は、このように、胴部内側に伸縮性の補助布 3 を周設し、さらにそれを下方へ延長したことである。そして、かかる補助布の延長部分をズボン等の下衣のベルト部によって締めつけることにより、作業服の上衣と下衣との一体化を図っている。ここで、図 2 は、上衣と下衣と補助布の関係を断面概略図によって示したものであって、1 は図 1 と同様に上衣を、3 は補助布を、5 は下衣をそれぞれ示している。このように、補助布の一端を上衣の胴部に周設し、逆端が着用時にズボン等の下衣の中に入れて締めつけることにより、作業中に上衣と下衣が離れてしまっても、補助布は伸びて上衣と下衣の間をつなぐので、作業者の肌や下着等を覆うこととなり、それらが汚れない。

【0011】補助布を設ける位置は、上衣の胴部一定断面に沿って内側に周設するのであればその高さは特に定

めるものではないが、余りに上方や下方に設けることは、本発明の意図するところではない。具体的には、帯2よりは上方であって、胸部よりは下方のあたりに設けると良い。また、胴部内側に周設する方法は、縫いつけるほか、ホックやマジックテープ（登録商標）等の取り外しが可能な構成にしてもよい。取り外しを可能にしておく、必要なときのみ補助布を取り付けことができ、都合が良いからである。また、補助布の素材としては、伸縮性があれば特に定めるものではないが、コストや着用感を考慮するとゴムニット綿が好ましい。

【0012】ところで、これまでは、ブルオーバの上衣を採用して説明してきた。しかしながら、これに限らず、従来のセバレートタイプの作業服が広く採用できる。例えば、前開きのものがこれに該当する。図3は、上衣の補助布の周辺部分をその内側から示したものであって、6は上衣の内側に周設された補助布を、7は上衣の帯を、8は上衣に設けられたファスナーを、9a・9bはそれぞれ補助布6の異なった面に設けられたマジックテープをそれぞれ示している。本実施例の特徴は、胴部内側に帯状の補助布6を周設し、補助布も前が開く構造としたことであって、作業者が着用後に、補助布のマジックテープ9を留め、ファスナー8を上げて使用する構成になっている。そのため、マジックテープ9aと9bは、補助布6の異なった面に設けられ、両者を留めることによって、補助布は筒状となり、作業者の腰部分を覆うこととなる。従って、前記マジックテープ9aと9bが重なるよう、補助布6は、その一端が、上衣の前開き部からはみ出している。尚、本実施形態の帯状の補助布を留める方法は、上記マジックテープに限らず他の公知の技術を広く採用することができる。例えば、ホック

やスナップボタン等が該当する。

【0013】また、これまでの実施例では、工場等で作業する大人の作業服について説明してきたが、本発明で開示する作業着はこれに限る物ではない。例えば、おむつの取り替えが困難であった幼児用のジャンプスーツの代わりにも適応する。従って、本発明の作業着の上衣は、そのサイズ、素材、デザイン等は使用者に応じて適*

* 宜設定することとなる。例えば、図1に示した帯2は、作業のじゃまにならない限り設ける必要はなく、シャツのように上衣の裾を絞っていないものでもよい。また、下衣は、従来から採用されている作業服のスボン等の公知のものを広く採用できる。

【0014】

【発明の効果】本発明は、セバレートタイプの作業服の上衣胴部内側に補助布を下方へ延長して周設し、その延長部分をスボン等に入れ、そのベルトによって補助布を締めつけることにより、例えば前屈姿勢時にも補助布が上下衣間をつなぐので、背中が露出してしまうことがなくなった。従って、セバレートタイプの作業服では行いにくかった自動車整備等の汚れやすい作業でも、セバレートタイプの作業服で行えるようになった。

【0015】さらに、従来の幼児用ジャンプスーツの代わりに本発明の衣服を採用することにより、おむつの取り替えが容易になった。

【0016】また、本発明の作業服では、上衣と下衣を別々に設けることができるので、上衣のみに防寒のための裏地等を設けることも可能となった。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明で開示する作業服を示す概略図

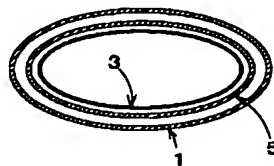
【図2】本発明の作業服と補助布と下衣の関係を示す概略図

【図3】本発明で開示する前開きの作業服を示す一部削除図面

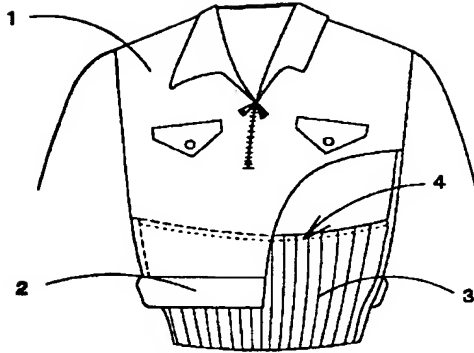
【符号の説明】

- | | |
|---|--------------|
| 1 | 上衣 |
| 2 | 帯 |
| 3 | 補助布 |
| 4 | 補助布を縫いつけた縫い目 |
| 5 | 下衣 |
| 6 | 補助布 |
| 7 | 帯 |
| 8 | ファスナー |
| 9 | マジックテープ |

【図2】



【図1】



【図3】

